

がら、穏やかな声で話しかけ、関わり合
いながら声を聞くことでした。そのとき
大事なことが、「待つこと」なのです。介
護者がじっくり待つことで、本人が自ら
自分の思いを徐々に表に出すことができ
るようになります。これがとても大切な
ことなんです。

ご家族が関わる場合も基本的には同じ
なんです。日々介護しておられるご家
族が認知症の方と向き合うためには、心
に余裕がないとそうはいきません。たま
には専門職に甘え、「ご家族自身もリフ
レッシュできる時間を持つようにしてく
ださい。

最後は、熊本市中央四地域包括支援や
すらぎの森センター長の那須久史先生に
「認知症の方を地域で支えるために」の
演題で、認知症の人への援助、認知症の
人を地域で支える援助、認知症の人を地
域で支える地域をつくる援助について、
事例や活動を通して講演をいただきました。
内容の概要は次のとおりです。

地域包括支援センターには、保健師、
主任介護支援専門員、社会福祉等の専門
スタッフを配置し、介護や健康、権利擁
護のほか、生活のさまざまな相談を受け
付け、暮らしやすい地域づくりを目指し
ています。その活動の柱は三つあります。
一つ目は、認知症の人を支える援助で
す。認知症を支える体制としては医療、
介護、地域支援がありますが、私どもの
地域包括センターには認知症地域支援推
進員というコーディネーターがあり、介
護から医療につながる活動及び地域で体
制づくりに関する活動をしています。この
活動では、かかりつけ医とケアマネ

ジャーが連携し、専門医につなげたなど
の事例があります。

二つ目は、認知症の人を支える環境へ
の援助です。身近な地域での「ふれあ
い・いきいきサロン」に関する事例を紹
介します。このサロンは長年、民生委員
をされていた女性が、平成十六年にサロ
ンを開始。そのスタート時から参加され
ていた方が、糖尿病性網膜症の悪化や認
知症の発症により、平成二十年ごろから
サロンに顔を見せなくなり、老人保健施
設に入所。その後全盲になれましたが、
「サロンに行ってみよう」と、本人が希
望されたので、施設の理学療法士等が介
助してお連れしました。三年ぶりに参加
されたサロンでは皆さんから笑顔で迎え
られ、同伴の家族の方も喜ばれ、生活の
継続性の大切さを感じました。

三つ目は、認知症の人を支える環境を
つくる援助です。実は平成十六年ごろ熊
本市認知症高齢者支援ネットワークをつ
くろうというところで、認知症専門医、学
識経験者、弁護士、施設の方々が一緒
になって体制づくりをしました。

当センターの担当地域は熊本市の託麻
原・帯山西校区。託麻原校区に認知症の
方は推計で二七五人いるとされています。
私たちは校区で認知症を自らの問題とし
て認識してもらおうと、認知症サポー
ターを約一二〇人養成。昨年十月には託
麻原小で、認知症キッズサポーター養成
講座も開くことができました。

さらに託麻原校区全体で、認知症の方
を見守る地域体制づくりを目指していま
す。認知症への取り組みの先進地域であ
る山鹿市に研修に行きその後、認知症支
援フォーラムを熊本学園大学で開催しま

した。三月十八日には、熊本市では初の
「徘徊者捜索・声かけ模擬訓練」を実施
する予定です。

当地区にはマンションが多いため、住
民の情報管理面で課題もありますが、住
民のつながりを深めながら、支え合いの
ネットワークを、さらに大きく広げて行
きたいと思っています。

約五〇〇人の来場者があり、講演終了
後のパネルディスカッションでは、講演
者全員が登壇し、あらかじめ寄せられた
質問と会場からの質問に講演者が答える
形で行いました。内容を、三月十六日の
新聞紙面に掲載しました。

合計三回のセミナーとも「在宅医療」、
「リハビリテーション」、「認知症」とい
う身近な問題でもあり、それぞれの現状
や課題について、全員が真剣な様子で聴
講していたのが印象的でした。

常任理事（事業担当） 遠藤 文夫

総合生活情報紙「あれんじ」の 健康・医学・医療・学術記事 の執筆・監修

熊本日日新聞社発行の総合情報紙「あ
れんじ」(タブロイド判一六頁三十五万
部発行)の第一土曜日の十面と十一面
の見開き二頁について肥後医育振興会が
執筆・監修を行い、医療・医学並びに医
学に隣接した学問分野の学術情報を県民
に提供しました。メインの記事として医
学医療関連の「元気の処方箋」を八回
(四、六、七、九、十、十二、一、三
月)、また、周辺の学術記事「熊遊学

ツーリズム」を四回(五、八、十一、二
月)掲載しました。前者は、熊本大学本
荘キャンパスの医学系の先生方に、また
後者は、主に熊本大学黒髪キャンパスの
先生方に担当していただきました。特筆
すべきこととして、熊本細川藩が、西洋
医学を教える「古城医学校(通称)」を
明治四年に開校して、平成二十三年が百
四十年目にあたる年だったため、十一月
号にはその特集記事を組みました。それ
ぞれのテーマを下記に記載しております。
それぞれの頁にコラム欄を設けていま
すが、「元気の処方箋」の際は「子育て応
援クリニック」と「慈愛の心医心伝心」
を、また「熊遊学ツーリズム」の際には
「四季の風」と「熊本まつり探訪」を掲
載いたしました。

なお、これらの全ての記事を「肥後医
育振興会」のホームページに転載してお
り、どなたでも自由に読めるようになっ
ています。

「元気の処方箋」

- 四月 脳梗塞に対する血管の手術
- 六月 ペインクリニックってなに？
- 七月 食道がん胃がんの診断と治療
- 九月 腰痛性疾患の最新治療
- 十月 「乳がん」のことをよく知ろう
- 十二月 大人のアトピー性皮膚炎
- 一月 加齢黄斑変性症
- 三月 「骨粗しょう症」を正しく知る
- 五月 「熊遊学ツーリズム」
- 五月 心と体を元気にする「音楽療
- 八月 「セラフェンナシート」が世
- 十一月 「古城医学校」から百四十年